

特集 「寝具寝装モノ作り」

リュクス 生産・物流の一貫体制構築 コスト増、物流問題への対応強化

寝装・インテリア企画製造のリュクス(大阪市西区)は、日本と中国に生産・物流拠点をもち、企画から製造、検品、物流まで自社グループによる一貫体制を構築している。原材料価格の上昇、海上運賃値上がり、円安によるコスト増や、トラック輸送の時間外労働に対する規制が強化される「2024年問題」への対応を進める。

圧縮梱包機を増設

積載効率高めコスト減

リュクスは、中国に合併の寧波明輝寝具(浙江省、青島徳隆紡織(山東省)のグループ企業を持つ。青島徳隆紡織はふとんカバーや敷パッド、キルトケットを生産する。日本向けが主力で、ふとんカバーは



寧波明輝寝具

17年に山東省済寧市にキルト工場を新設し、18秋冬向けから本格稼働した。21年7月にはコンフォーターキルトマシン2台を導入し、肌ふとんなどの対応力を高める。中国の環境規制に対応できず廃業する企業がある中で、安定供給のため、毛布の縫製加工設備を導入。19年に月産8万枚の供給体制を構築したが、需要の高まりから20年7月に設備を追加して生産能力を1.5倍に増強。月産能力は11万枚に上る。

さらに、増えつつあるニット使いのふとんカバーなどに対応するため、ニット専用ミシン10台を20年秋に増強。現在16台体制で生産する。

寝具以外の生産も手掛り、キルトティンクやボンディングしたラグを20年から



ロジテック本社

2台、本縫いミシン100台などを備えて、マットレスや枕、クッションを生産する。年間生産能力は枕約300万個、マットレス約80万枚に上る。18年からスプリングマットレスも生産する。物流コスト上昇への対応や作業効率化を図るため、20年に自動圧縮機3台を導入した。

課題には、円安、海上運賃値上げ、原材料価格上昇によるコストアップが挙げられる。トリプルパンチに対し、「自助努力でできることを追求する(金子忠社社長)」とし、圧縮梱包(こんぼつ)機の台数を増設して積載効率を高め、物流コストの低減に努める。圧縮するとへたりにやすくなるが、復元力の高い中わたを採用するなどして圧縮梱包に対応したモノ作りを行う。

日中間でダブルフォロー

「24年問題」見据え設備投資

検品・物流機能を持つ点もリュクスの強みに挙げられる。グループ会社のロジテック(大阪府貝塚市)が1

廈門支店(福建省)を開設

「クリステイ」ブランド独占販売

「スマセル」と資本業務提携

製品では、ライセンスブランドの展開を積極的に進める。英国の歴史あるタオル・寝具ブランド「クリステイ」の国内独占販売権を取得済み。クリステイは格調高いデザインを特徴とし、1988年からテニス

の世界的大会の一つであるウィンブルドン選手権の公式タオルとして採用されている。ウィンブルドンタオルは、大手スポーツ小売りやテレビ通販ルートへ販売する。

さらに生地や繊維製品の在庫を売買できるB2Bサイト「スマセル」を運営するウィファアプリック(大阪府西区)と資本業務提携を19年に結んだ。スマセルへの出資を通して、ホームファッション分野の取引先の在庫問題に対応し、環境負荷低減につなげる。

20年に買収した中東などの民族衣装向けに国産プリント生地を輸出するタイゴ(大阪府西区)とのシナジー効果も高める。

24年4月1日から、トラックドライバーの時間外労働時間の上限規制が施行される。ドライバー不足や輸送停滞を見据えて、作業員の負担が大きい荷役作業の効率化や省人化を目的に、保管棚のラックなどマテリアルハンドリングに設備投資し、1人当たりの効率を高める。外部を含めて大阪府内に物流拠点が3拠点あるが、新倉庫を設ける予定で顧客の利便性を高める。



株式会社リュクス



Find The Comfortable Living

快適な生活を創造する

常に新しい価値観で、機能的でデザイン性のあるホームファッションを作ること。

株式会社リュクス 〒550-0005 大阪市西区西本町1-4-1 オリックス本町ビル TEL: 06-6541-1551 FAX: 06-6541-1558